

(7) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は一部に持ち直しの動きがみられるもののおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善している。

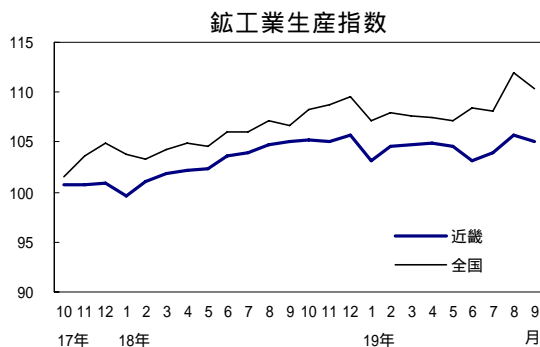
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 19 年 8 月）	今回（平成 19 年 11 月）
個人消費	持ち直しの動き	一部に持ち直しの動きがみられるもののおおむね横ばい
雇用	依然として厳しい状況だが、改善が続いている	改善している
住宅建設	減少	大幅に減少

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

一般機械は、ガスタービンやフラットパネルディスプレイ製造装置等が好調なことから増加している。化学は、石油精製用触媒等が好調なことから堅調に推移している。電気機械は、リチウムイオン蓄電池が海外向けを中心に好調なことから増加している。食料品・たばこは、清酒が不調だったことから減少している。電子部品・デバイス、海外向けのパッシブ型液晶素子や、パソコン向けのアクティブ型液晶素子などが好調なことから増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
一般機械	15.0	4.5	0.2	0.8	4.7
化学	12.8	0.9	0.9	0.4	3.3
電気機械	10.1	0.6	4.8	3.3	1.0
食料品・たばこ	8.1	0.9	0.6	0.3	5.3
電子部品・デバイス	7.9	3.0	2.5	3.7	12.7
鉱工業	100.0	0.0	0.7	0.2	3.8

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

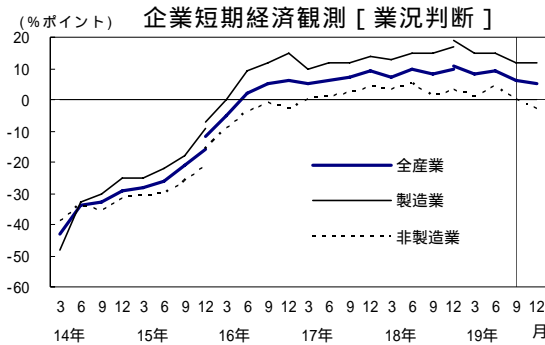
2. 7~9月期は速報値。

(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

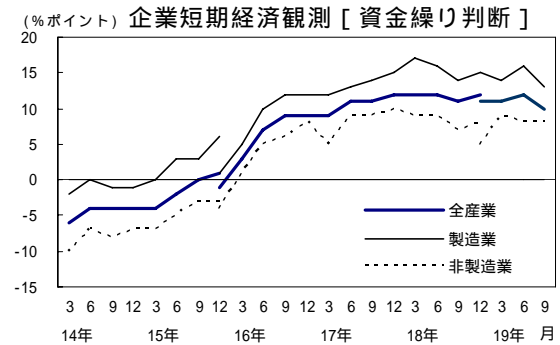
2. 平成19年9月の近畿は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ縮小している。

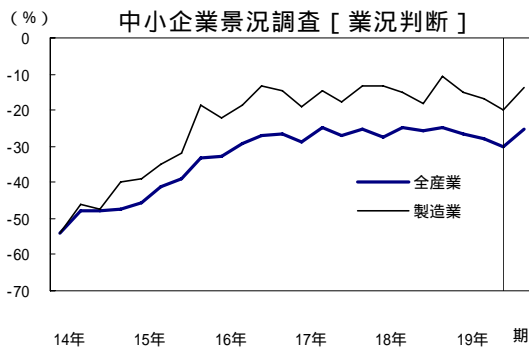
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年12月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

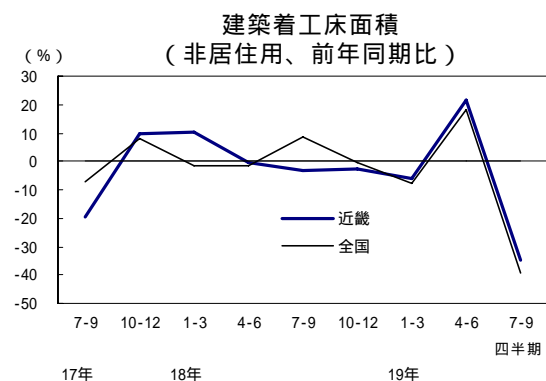
「これまででは一部の大企業が景気を押し上げてきたが、取引先をみていると、最近は大企業にも陰りが出てきている(電気機械器具製造業)」など「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度計画
全産業	4.1	14.3(1.0)
製造業	12.1	12.7(0.8)
非製造業	2.4	15.9(1.2)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費は一部に持ち直しの動きがみられるもののおおむね横ばいとなっている。

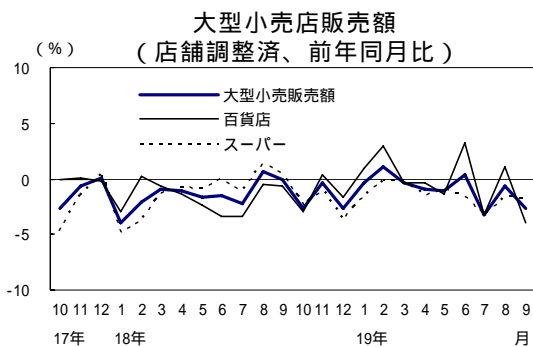
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、衣料品はクリアランスセールの前倒しや天候不順の影響から前年を下回り、飲食料品は中元の早期割引による受注前倒しの影響から加工食品等の動きが鈍く、前年を下回ったことから、全体でも前年を下回った。8月は、衣料品は秋物が不調だったことから前年を下回ったものの、飲食料品では生鮮食品、惣菜、和洋菓子など全般的に動きが良かったことから前年を上回り、全体では前年を上回った。9月は、飲食料品は全般的に動きが良かったものの、衣料品が厳しい残暑からジャケットやセーター、ロングブーツなどの秋物の動きが鈍く、前年を大きく下回ったことから、全体でも前年を下回った。なお、近畿百貨店協会によると、大阪地区の10月の売上高は、前年同月比で1.9%減となっている。

スーパーは、気温が高めに推移したことから果物、飲料、アイスクリームなど飲食料品に動きがみられたものの、秋物衣料を中心に衣料品が振るわず、全体では前年を下回っている。

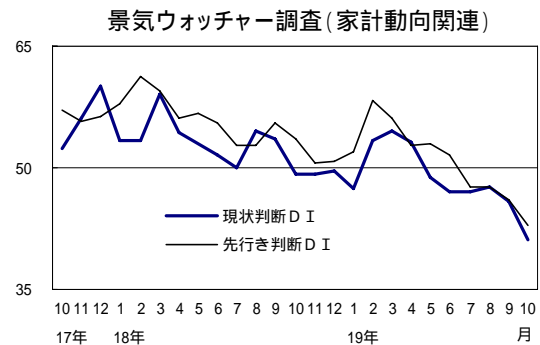
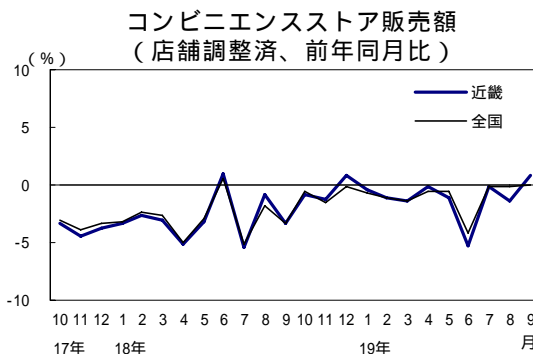
景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「生活費や食費の節約傾向により、安い物がよく売れている。まとめ買いが少なくなっているほか、プレミアムビールなど高い物は売れず、発泡酒ばかりが売れている(コンビニ)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	18年10-12月	19年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	2.0	0.1	0.6	2.2
百貨店	1.4	1.0	0.5	2.2
スーパー	2.4	0.7	1.4	2.2
コンビニ	0.4	1.0	2.3	0.3
景気ウォッチャー	49.4	51.8	49.7	46.9

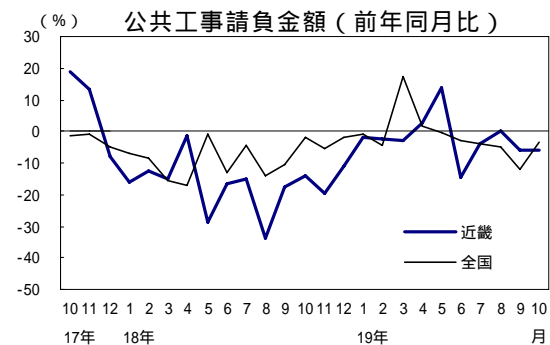
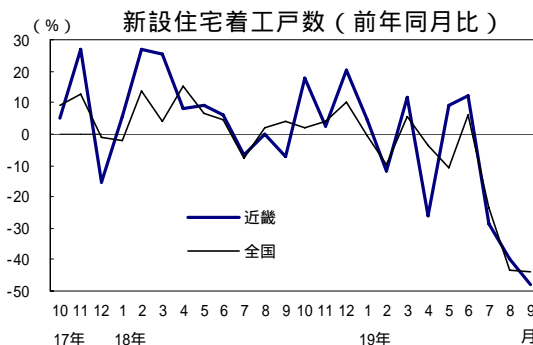
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

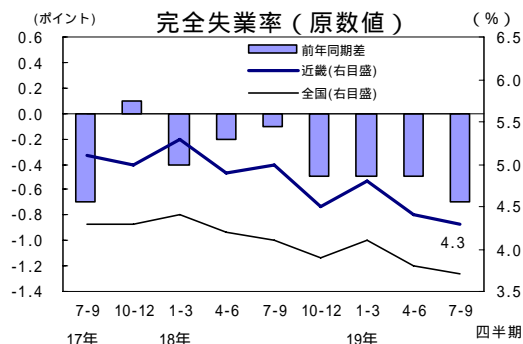
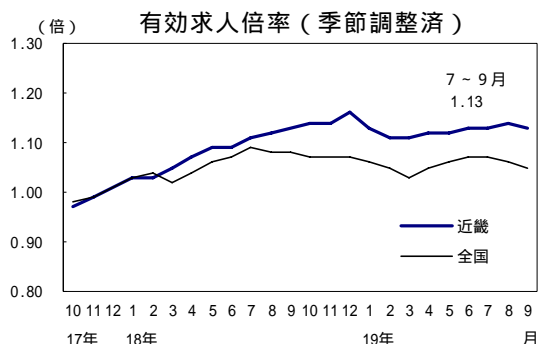
持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は、改善している。
 有効求人倍率及び完全失業率
 有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。

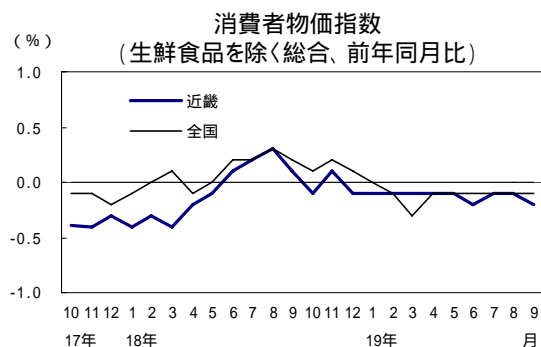


景気ウォッチャー調査（10月）[雇用関連（現状）]
 「日雇求人については、職人などでは多くみられる一方、50代ではほとんどない。さらに、建築基準法の改正に伴って建設工事の着工が遅れており、下請業者からは仕事が減ってきたとの声が増えている（民間職業紹介機関）」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、負債総額は減少しているものの、件数はおおむね横ばいとなっている。
 (3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	18年10-12月	19年1-3月	4-6月	7-9月	19年10月
倒産件数	897	920	980	898	326
（前年比）	17.2	0.1	7.7	0.6	8.7
負債総額	3,301	2,242	2,102	1,547	1,432
（前年比）	3.3	37.5	11.1	25.1	56.9



景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・ 来客数にあまり変化はないが、購入が特売商品に集中する傾向がみられる。同じ店に来るのではなく、そのときの価格を比較して店を選ぶ客が多い（スーパー）

<先行き>

- ・ 度重なる原材料の値上げを販売価格に転嫁できない状況が続いており、収益を圧迫している。ただし、建築確認が徐々に下り始めたことから、受注は少し持ち直す（化学工業）

景気ウォッチャー調査（合計）

